

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 3 月 4 日
 所 属： 獣医学部 獣医学科
 氏 名： 山田一孝 職位： 教授
 役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

1. モデル・コア・カリキュラムに則った獣医放射線学教育の提供.
2. 国家試験に合格できる水準の獣医放射線学教育の提供.
3. 獣医放射線学を構成する「放射線生物学」「放射線化学」「放射線物理学」「小動物画像診断学」「大動物画像診断学」を体系的に理解させること.
4. 獣医放射線学という学問の教授.

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医放射線学	獣医学科	必	V2	153
獣医放射線学実習	獣医学科	必	V5	129
小動物獣医総合臨床	獣医学科	必	V5	129
小動物臨床実習	獣医学科	必	V5	129
小動物病院実習	獣医学科	選	V6	6
先端獣医療	獣医学科	選	V6	20
産業動物獣医総合臨床	獣医学科	必	V5	129
産業動物臨床実習	獣医学科	必	V5	129
総合獣医学	獣医学科	必	V6	140

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

学部教育では, 獣医放射線学を体系的に理解し, 自然科学の中で獣医放射線学の役割を俯瞰的にとらえることのできる獣医師の育成を心がけている.

研究室所属学生の卒業論文指導では, 「自ら考えることのできる能力」と「日本語で適切な報告書を書くことのできる人材」の育成を心がけている.

大学院教育では, 修了後に自ら論文を執筆・投稿できる能力の養成を心がけている.

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方, 方法）

1. わかりやすい説明をするように心がけている.

2. 学生からの質問に対応するよう心がけている。
3. 国家試験では、獣医放射線学の設問に正解できる水準の教育を心がけている。

アクティブラーニングについての取組

- ・反転授業を取り入れた。授業評価アンケートでは、反転授業は、高評価を得ている。

ICTの教育への活用

- ・一昨年作成したオンライン教材を、今後の対面授業でも活用したい。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

②学生の理解度の把握（A）

③学生の自学自習を促すための工夫（A）

④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A）

⑤双方向授業への工夫（A）

- ・学生からの質問に、積極的に対応している。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V学科，M学科の教員の方のみ記載してください。）

- ・放射線学分野の過去問を分析し、講義スライドに反映させた。
- ・総合獣医学の講義を担当した。

5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

丁寧に説明することを心がけた。

② ①の結果はどうでしたか。

ネガティブな指摘はなかった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

引き続き、わかりやすい授業を心がける。

6. 学生の学修成果

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

- ・わかりやすい説明をするように心がけている.
- ・学生からの質問に対応するよう心がけている.

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

- ・4年生森田樹氏を第166回日本獣医学会で口頭発表させた(2023年).
- ・大学院生近藤太郎氏と6年生眞下大和氏が、アイソトープ放射線研究発表会若手優秀講演賞をダブル受賞した(2022年).
- ・帯広畜産大学, 登別マリパークニクスとのペンギンのアスペルギルス症に関する共同研究がNHKニュースで放送された(2022年).
- ・大学院生近藤太郎氏が, 日本ウマ科学会優秀講演賞を受賞した(2021年).
- ・研究生松本直也氏が, 日本野生動物医学会優秀論文賞を受賞した(2021年).

7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)

- ・FD 研修会に, できる限り参加している.

8. 今後の目標 (理念の実現に向かう今後のマイルストーン)

- ・国家試験合格率の向上を目指している.
- ・長期的には, 社会で活躍できる人材養成を目標としている.

9. 添付資料 (根拠資料) (※) 資料名のみ

なし